

01

日比谷花壇ならではの追求して、新たな造園ビジネスをプロデュース

日比谷花壇に屋内緑化コンクール4年連続入賞の実績をもたらした、緑化事業のエキスパートとして活躍する保坂さん。子供の頃から自然に親しみ、絵を描くのが好きだったことから「いつかガーデンデザイン分野で活躍したい」という夢を抱き、造園業界へと飛び込みました。

しかし、経験がモノを言う業界において幾度となく悔しさを味わうことに。理想と現実とのギャップの中で、次第に「自分のレベルを引き上げたい」という想いが強くなり、入社6年目には難関資格「樹木医」を取得。自らの力で壁を乗り越え、少しずつ専門性を磨いていきました。その後、かねてから志していた空間デザインの仕事を求めて、日比谷花壇に入社。当初は日比谷公園本店に配属され、その後法人事業統括部の所属となりました。

当時の緑化案件は人工樹木を用いた装飾が中心だったため、周囲には「生木よりも造木が得意」と会社紹介されることもあったそう。みどりの本質的な価値を信じてきた保坂さんにとって、それは新たに出現したハードルでもありました。「集客や交流に繋がるアプローチなら、日比谷花壇の強みをより活かした緑

化を模索できるのでは」そんな想いから、コミュニティデザインプログラム「めぐりかだん」の監修を始め、新たな緑化事業ブランド「Wellne（ウェルネ）」の旗揚げに参画。これらは日比谷花壇らしさと保坂さんの経験・想いを融合した、象徴的なサービスとなりました。

現在は、「東京パークガーデンアワード」で書類審査を通過した5名のファイナリストに選定され、休日を利用して個人で奮闘しています。今年は東京・砧公園を会場に、ガーデンの美しさ、土壌作りや樹種選定、半年以上にわたる維持管理まで、計3回の審査を経て、11月にグランプリが決定します。「自分で維持管理を試しつつ、より実践的で美しいデザインを提案できるようにしたい」と語る応募理由からは、悔しさを糧に成長してきた歩みと、初志を貫く芯の強さが感じられます。保坂さんが手がけた花壇の様子は、コンテスト公式サイトをぜひご覧ください。

「なんとなくで働きたくない」という言葉の通り、意志を明確に持ち、それを実現するために日比谷花壇にいる。そのブレない姿勢に、熱い情熱を感じたインタビューとなりました。

(取材：中村)



Hosaka Yuuhei

保坂 悠平さん

入社10年目



花とアートでまちを彩る — 園川さんの挑戦

今回のインタビューは、EXPO2025 関西万博での装飾プロジェクトにも携わった園川さんにお話を伺いました。大阪芸術大学の彫刻科を卒業後、制作活動を続けユニバーサル・スタジオ・ジャパンでフェイスペイントをしながら作家活動を行い、日比谷花壇で働き始めました。「アート作品は形に残るけれど、生きている花を残すことは難しい。その瞬間しか見られない“生きるアート”の魅力を発信したい」そう語る園川さんは、アートと花、それぞれの特性を生かしながら活動を広げてきました。社会貢献の一環として、地域と共に作り上げるアート展や幼稚園・小学校での活動にも積極的に参加し、身近に感じるアートを広めています。

万博では、堺市代表アーティストとして茶室装飾を担当。堺市主催の茶の湯文化の魅力を国内外に伝える企画で、約1500本の草花を使ったお花畑でお茶を楽しめる空間「花逢庵」(かほうあん)を制作。さらに、ギャラリーEASTでのステージでは「堺市に花を咲かせよう！」をテーマに伝統産

業を交えたパフォーマンスを披露。ワークショップも開催し、50人以上の参加者がカラフルなボン生地を使って作品を制作。完成した作品は京阪中津島線大江橋駅に飾られ、子どもから大人までが楽しみながら堺市の魅力を感じられる場となりました。「国際的な舞台で表現できたのは、作家としてただ作るだけでなく、10年間の社会貢献活動としてアートと花の魅力を発信し続けてきたからこそできました」とお話しくださいました。

万博での経験は次なる目標にもつながっています。「高校時代に学んだ建築デザインやスペインのガウディ建築から受けた感動を原点に、アートと花とともに住むまちづくりを実現したい」日常の中でアートや花をより身近に感じてもらえるよう、地域に根付いた活動を続けたいと語ります。「残らない花」という儚さを、アートを通して大切にできる力へと変える姿勢が伝わってきました。アートと花を通じたまちづくりが、これからどんな形で広がっていくのかとても楽しみです。(取材：伊達)

Instagram: @sono.kawajyunya



Sonokawa Jyunya

園川 絢也さん

入社12年目



HIBIYA-KADAN
株式会社日比谷花壇 法人事業統括部
法人第1営業部 東日本営業4グループ

HIBIYA-KADAN
株式会社日比谷花壇 パンケット事業統括部
大阪第2婚礼チーム



サステナブルコーナー

里山の恵みを未来へ繋ぐ

今回のサステナブルコーナーは、PPP事業における事例として、神奈川県川崎市の指定管理施設「生田緑地」での取り組みをご紹介します。

東京ドーム約38個分の広大な敷地を誇るこの緑地は、2018年から生田緑地共同事業体（代表企業：日比谷花壇、構成企業：日比谷アメニス、東急プロパティマネジメント）が管理運営を行っています。

生田緑地では、緑地や生態系の管理で発生する、通常廃棄処分となる材（木材、竹材、笹材等）を「里山の資源」として有効活用する活動を進めています。この活動の目的は2つあります。1つは、来園者に自然素材の魅力に直接触れてもらい、自然への愛着を深めていただくこと。2つ目は、これらの資源の中には生物多様性向上を図る管理上で発生したものがあることを伝え、生態系保全という活動への理解を社会に広げることです。実際に、笹を刈ったエリアに、これまで見られなかったスミレが開花しチョウが飛来する等、生き物のにぎわいを創出しています。そのために、伐採木を加工した木工芸品や薪の販売をはじめ、発生材の利活用をテーマにしたイベント「青空フェスタ」、子ども向けのワークショップ、落ち葉プール、外来生物について学ぶ講座などで多様な材を使用し、来園者が楽しみながらサステナビリティについて考え体感できる多彩な企画を実施しています。また、市民活動団体へ発生材の提供や、発生材活用の取り組みを支援するなど地域社会との連携も深めています。その他にも、園内の手すりや柵の資材として補修にも役立てています。廃棄物を価値ある資源へと転換し、地域の方々を訪れる人々と共に自然に携わり、持続可能な未来を育めるよう、生田緑地は日々活動を続けています。（取材：荒川）

生田緑地HP：<https://www.ikutaryokuti.jp/>



重要文化財 旧三笠ホテル（長野県軽井沢町）

三笠ホテルは、設計・施工が日本人の手による純西洋風の木造ホテルで、日本郵船や明治製菓の重役を務めた実業家の山本直良が明治39年に創業しました。



館内の内装は、シャンデリア照明、英国製タイルを貼った水洗トイレ、英国製のカーペットの採用など、当時の最先端・最高級の設備が整えられ日本を代表する政財界人が数多く滞在していたことから、軽井沢の鹿鳴館と呼ばれていました。昭和45年にホテルとしての営業を終了し、その後、国の重要文化財に指定されています。

令和7年10月より、日比谷花壇が指定管理者として、管理運営を行います。施設の運営管理のほか、カフェ、ミュージアムショップの営業もあり、旧三笠カレーや軽井沢ならではのミカドコーヒーのご提供、オリジナルグッズのお土産販売など、歴史ある旧三笠ホテルの魅力を最大限に発信してまいります。

自然豊かで、多様な楽しみ方のできる軽井沢へ、みなさま是非遊びに来てください。（取材：荒川）重要文化財旧三笠ホテルHP
<https://kyu-mikasa-hotel.jp/>



資格特集

前職で設計や建物管理に携わっていた御宮司さんは、一級建築士、エネルギー管理士、建築物環境衛生管理技術者、消防設備士（甲種1類・4類）など、多岐にわたる資格を取得しています。



建築設計や管理の業務では分野ごとに専門知識が求められ、特にビル管理系は電気設備や原動設備、環境分野など細分化された多くの資格が存在します。そのため必要に応じて取得していくのは容易ではありませんが、御宮司さんは通勤時間や隙間時間を活用して業務に必要な資格を取得してきたそうです。

現在は「自然に関わる仕事がしたい」と日比谷花壇に入社し、鶴舞公園で植栽管理やイベント広報を担当。「どの仕事も人との関わりが面白い。必要があれば今後も資格に挑戦したい」と語ります。資格は実務に役立てるための手段であり、日々の業務で得られる力も大切にしている姿が印象的でした。新しいフィールドに挑戦し続ける御宮司さんの姿勢に、大きな刺激をいただきました！（取材：林田（茉））

本社が移転しました！

この度、日比谷アメニス・太陽スポーツ施設・エコル・エコルシステムの本社が2025年7月に下記住所へ移転しました。

＜新本社住所＞ 東京都港区南麻布3-20-1 Daiwa麻布テラス4階

新オフィスには、社員同士の交流やリラックスに活用できる「リフレッシュスペース（カフェスペース）」も新設されており、先日は引越しの慰労会が開催されました。

また、新本社には会議室（執務エリアの小会議室を含む）が15室あり、フリーアドレス席も旧本社に比べて大幅に拡充。部署をまたいだコミュニケーションが取りやすくなるよう、全体がワンフロアに集約されたレイアウトとなっており、今後のチームワーク向上が期待されます。

アメニスグループの複数チームが一つの場所に集まったこの機会に、気持ちを新たに、さらなる価値の創出に取り組んでまいります。（取材：佐藤）



健康支援サービス導入

アソシエイトの健康を考え、仕事を充実させるためには健康第一であり、皆さまでに寄り添いたいという想いから「にしたんARTクリニック」と提携し、健康支援サービスを導入いたしました。ご本人、ご家族、パートナーも無料でご利用いただけますし、検査および相談が会社に知られることもありませんのでお気軽にご利用ください。（※日比谷花壇グループ対象）

提供内容

AMH（卵巣予備能）検査無料
最短30分～1時間でわかる血液検査！
駅直結／駅近・22時まで診療

◎こんな方が受けています

- ・ライフプラン設計の参考にしたい・今の自分の状態を知りたい
- ・不妊治療を考えている
- ・プライダルチェックとして・第2子を考えている

カウンセラーによる健康相談無料 男女ともに相談可能！

◎こんな相談が多く寄せられています！

- ・月経／PMS・不妊症・不妊治療の保険適用・卵子凍結・更年期・プライダルチェック
- ・男性不妊・男性検査・パートナーのお身体のこと詳細、利用はQRから↑



編集後記

「趣味はマウンテンバイクです」と言ってみたくて、先日長野のダウンヒルに挑戦しました。普段はママチャリすらほとんど乗らないのに、なぜか自分にはMTBの才能があるのでは…と根拠のない自信を抱き、家族を引き連れて富士見パノラママウンテンバイクパークへ。そこは冬はスキー場、夏はガチ勢が集う本格的なMTBフィールド。場違い感に震えながらも「せっかく来たのだから！」とレンタルしたバイクで初心者コースへ飛び出しました。最初は恐怖心が勝っていましたが、スピードに乗ると風が頬を切り、普段で

は味わえない爽快感に夢中に。気づけば「これから毎年来よう。いや、年2回もいけるかも！」などと妄想が膨らんでいました。しかしそれは年寄りの思い込み。石に乗り上げ、あっという間に転倒。脇腹を強打し「これは肋骨折れたかも」と直感。帰りの車中は揺れるたびに激痛で、咳もおしゃべりさえも無理。恥ずかしさと後悔でいっぱいでした。

幸い骨は無傷で済みましたが、教訓は一つ。「自分を過信してはいけない」。趣味はかっこよく見せたいものですが、安全第一を忘れずに。次に挑むときは、防具も心構えも万全で臨もうと思います。（川村）

『らしさ』68号 2025年10月1日発行

発行人：中島 遥香（人事部）

伊達 優（人事部）

編集委員：中村 友美（広報室）

林田 悦世（首都圏南部ユニット）

林田 茉弥（商品企画推進部）

荒川 早苗（生田緑地公園）

佐藤 由麻（日比谷アメニス）

川村 和江（ランドフローラ）

〒106-8587 東京都港区南麻布1-6-30

Tel.03-5444-8726 fax.03-5444-8752

ハラスメント等相談外部窓口【ウイティ】

健康、キャリア、ハラスメント等のあらゆるお悩みを外部専門家が一元的に受け付けております。公平にプライバシーを守って対応致します。
＜アカウントID＞HBY+ 社員番号 ＜パスワード＞西暦8桁の生年月日 ※初ログイン後は任意のパスワードに変更して下さい。



<https://wity.tokyo/pha/>

